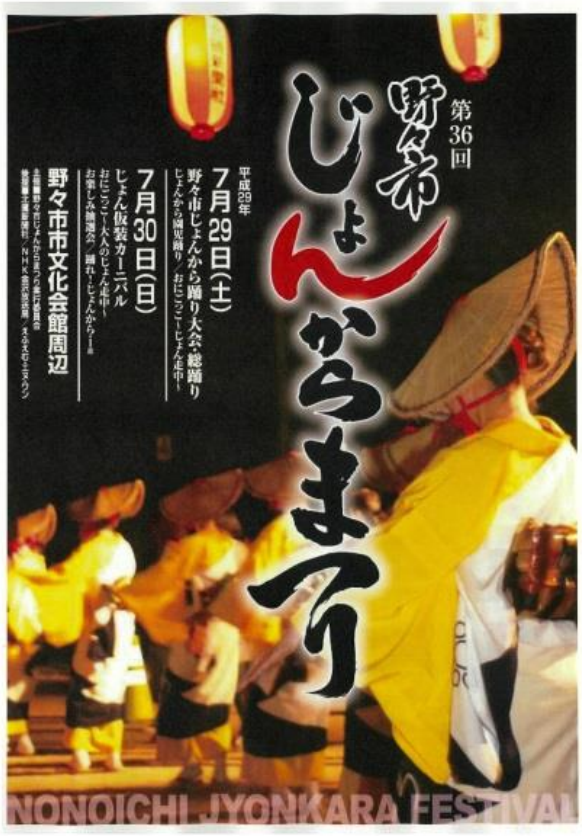
地域イベントにおけるデジタルアートを活用した地域の魅力発信

学生団体名　DK art café プロジェクト（金沢工業大学）
参加学生　　山田陽樹他 10 名

１．地域活動の概要

本事業では、野々市市のにぎわい創出と地域の魅力発信を目指して野々市市産業振興課、野々市じょんからまつり実行委員会、及び野々市市内全小中学校（７校）と共創活動を実施した。地域の課題であるイベントのマンネリ化・イベント来場者数の伸び悩みといった問題について、市の未来を担う小中学生にスポットを当て、児童生徒が作った作品や児童生徒の活動風景用い、デジタルアートにして会場を彩った。



（写真）じょんからまつりポスター

２．地域活動の具体的な内容

【４月３日（月）】会場現地調査

野々市じょんからまつり会場調査。会場のどこがデジタルアート投影に効果的であるか。会場の雰囲気からどういった作品が好ましいのか？現地調査と低予算を加案してプロジェクターを用い、地域に密着したコンテンツを活用されていない空間に投影し、集客を図るものにすることとなった。

（写真）デジタルアート投影会場現地調査

【４月 12 日（水)】コンテンツ収集
地域の人々に地元への愛着をもってもらい、家族を巻き込んだ集客を図る狙いから、デジタルコンテンツを市内小中学生の活動風景に決定。市内全小中学校（７校）との調整の上、提供できる写真・動画を提供依頼。

【６月 15 日（木)】コンテンツ制作
集めたコンテンツから、当日の放映できるものに作品を編集。小中学校から集まったコンテンツは児童生徒が作った作品や児童生徒の活動風景（絵、木工作品、じょんから踊りの練習風景、行事風景、部活風景、授業風景等）で、170 点余りが寄せられた。

【７月 27 日（木)】リハーサル
設営。照明確認。コンテンツの投影。日の入りが 19 時であることから、19 時半から投影開始。照明との兼ね合いが難しかったが、日が落ちるにつれ鮮やかにコンテンツが投影され、当日使用する２台のプロジェクターを用いてリハーサルを行った。

（写真）設営、リハーサル

【7月29日（土）・30日（日）】野々市じょんからまつり当日

両日19時から21時まで投影。当日は両日で延べ3万2千人を超える集客があり、沢山の来場者に地域を活かしたデジタルアートを楽しんでいただいた。

（写真）まつり当日

３．地域活動の成果

従来活用されない空間を活かし、野々市じょんからまつり会場を彩った。野外プロジェクター２台を会場内２段イントレ上に配置し、両日 19 時半から 21 時まで小学校校舎壁面を利用してコンテンツを投影した。コンテンツはまつりへの興味が生まれるよう、小中学生にスポットを当て、児童及び家族を巻き込んで当日会場に足を運びたくなるような趣向のものを編集し、投影した。

今年の両日の来客者数は延べ 32,513 人で、昨年と比較して 1,873 人の増となった。２日間を通して見ても、両日ともデジタルアートを実施した夜間の来場者数が最も多かった。地域からも好評の旨をいただき、デジタルアートの実施と来場者数の増加から、地域の課題であるイベントのマンネリ化や来客数の伸び悩みの問題の解決に成果があった。

（表）来客数推移

調査年度	一日目（土）	二日目（日）	計
今回調査（平成 29 年度）	17,838 人	14,678 人	32,516 人
前回調査（平成 28 年度）	17,024 人	13,619 人	30,643 人
増減	814 人	1,059 人	1,873 人

（表）３時間別の来客状況

３時間別の来客状況	一日目（土）	二日目（日）	計
9:30～12:00	1,551 人	2,094 人	3,654 人
12:00～15:00	2,846 人	2,881 人	5,727 人
15:00～18:00	4,504 人	4,707 人	9,211 人
18:00～21:30	8,937 人	4,996 人	13,933 人
計	17,838 人	14,678 人	32,516 人

４．来年度の地域活動計画

本事業の結果を踏まえ、更なる野々市市との連携強化による継続的な取組を検討する。来年は、予算増額により、集客が期待できる高度なデジタル技術（マッピングソフト、センサー、ロボット、及び大型プロジェクター等）の活用の場としたい。本取組を一過性のものではなく継続することよって学生と地域との交流が活性化され、野々市の名物イベントとして地域により好影響を与え続けることが大事。

５．学生の感想

沢山の来場者の皆さんに楽しんで頂けて良かった。今回は予算が少額であった為、KIT らしいよりエンターティメント性が高く集客効果も見込めるデジタルメディア技術、例えばマッピングソフト、センサー、ロボット、及び大型プロジェクターなどの使用ができなかったのが残念だった。来年は予算増額をお願いしたい。

６．地域活動に対する地域からの評価

今年で第 36 回目を迎えた野々市じょんからまつりだが、課題としてイベントのマンネリ化、イベント来場者数の伸び悩みが運営の委員会の中で挙げられていた。本事業による地域活動により、地域が実施

できない演出性の高い専門的な技術を要する企画を、学生の専門知識を活かし実施していただいた。学生目線による、例年活用されない空間を活かした集客案により、これまでの課題であったマンネリ化の脱却や来客数の増加につながった。地域を活かしたコンテンツにより、来客者が地元への愛着を持つきっかけとなり、未来への更なるにぎわいの創出が生まれた。今後、この取組を活かし、デジタル機器を用いて、イベントの様子等、様々なコンテンツをイベント会場で発信していきたい。